



読字 原田 鏡

No. 837

2017/ 8/15

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒110-0045 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会  
岡山支部  
〒710-8256 岡山県岡山市東区3-8-30 511  
TEL:086(272)-3010  
郵便番号1100 01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8911 倉敷市連島中央1-8-4 (宮地方)  
TEL:FA3(086)446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhong.biz/>  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



## 被害のヒロシマの前に加害の南京があった(2)

### ―広島・南京をむすぶ平和友好のつどい―に参加して―

曾田 和子

広島市中区袋町のまちづくり市民交流プラザは、袋町小学校に隣接するような位置にあります。そこで、7月16日の午後、121人の(定員の倍)参加で、広島・南京をむすぶ平和友好のつどいは行われました。やはり主催は閉ざされた記憶―ノーマン南京展―呼びかけ人会と南京民間抗日戦争博物館です。

オープニングの音楽のつどいでは、呉や広島グループによる沖縄三線演奏や歌が披露されました。

立されたが、50年11月15日に大阪支部が不当な家宅捜索を受けたということ。ポツダム政令25号違反に問われたのとか。国交のなかった当時、中国のことを知るため、人民日報など中国発行の資料を日本に輸入し、大学や新聞社などに配布していた活動が罪に問われた、と。3人が逮捕され、一人は重労働23年、他は5年とか。本部も12月31日に捜索を受け、重労働5年とかの罪に問われたそうです。

私の課題として、日中友好協会の歴史学習の必要を感じました。



証言をする陸玲さん



鼓楼病院で治療を受ける瀕死の李秀英さん

続いて、南京大虐殺幸存者・李秀英の娘 陸玲さんの証言でした。母は当時19歳で、お腹には7カ月の子がいた。母は死んで

も日本人に辱められたくなかつた。二人の日本兵が銃剣を抜いて母の体にメチャクチャに突き刺した。全部で37か所だと言っていた。母が死んだと思つて、もう墓穴も掘つて、母を埋めに行くところだった。鼓楼病院で治療を受ける李秀英さんをマギー医師が撮つた写真のことや、マギー医師と李さんが1945年には大虐殺の証人となったことなど、貴重な話を聞かせてもらいました。白髪の目立つ陸玲さんですが、母のことを証言するのが娘の自分の責務だとのことでした。



藤本安馬さん

2人目は、元大久野島毒ガス工の藤本安馬さんです。彼の主張は、時の軍国主義権力の延長線上に、現在の極右自民党安倍政権が謝罪と賠償の責任を負っているのがある。また、過去の戦争に協力した国民の延長線上に、現在の国民が幫助罪を相続しているのがある。というものです。小柄な92歳の藤本さんは三原市在住。準備してきた原稿を気力を込めて読み上げるというふうな話ぶりでした。

3人目は南京民間抗日戦争博物館館長の呉先斌さんです。彼は今回、陸玲さんなどとともに11人の訪日交流団を率いて、そして一人娘を同伴しての来日です。多くの善良な、友好的な日本の方々非常に困難の中で一生懸命に南京の歴史を伝え、そして

南京の真相を伝えようと、何度も何度も南京に来ていた。南京大虐殺の当時の事実を知り、そして戦争に反対するというのが私たちの博物館の目的である。と、この会の主催者が準備した資料に、パネリストの紹介と彼の語りの抜粋として記してある。南京生まれの53歳。

よくある彼への質問に、国立の江東門の博物館と呉さんの民間博物館の違いは？というのがある。これに対してこちらはお金に困つたら、政府がいくらでも出してくれる。私のところは困つたら、奥さんに頼んで出してもらおうと笑いを誘いながら語る呉さん、話し上手になられたなあと感じた。抗日戦争での国民党の兵士たちの顕彰も、民間だからこそできるのだ、と、これまでの彼の付き合ひの中で聞いてはいた。しかし、博物館をつくる原点は、子どもころ祖父とともに週1回程度かよつた漢中門にあった銭湯への道中、この辺りで多くの人々が虐殺されたと祖父が話してくれたことにある、と思う、と。私には、このことは初めて聞く話だった。

日本の右翼からの攻撃は彼にも及んでいるようだ。新潟からの国際郵便で「支那の豚」と記したカードや、英語で彼を罵るような言葉、下劣な写真もあった、と。日本に来るな、ということだろうが、自分はこのなことではひるんだりしない。二人の南京市民として、一人の中国人として、困難な中で活動を続ける皆さんに、私は心から感謝と敬意を表す」と。宮崎の穴紘一宇の塔についても報告があった。南京の石の返還を求める活動のことだが、個人的には石の返還にこだわらない。このままここにあっていい。しかし、石がどのような脈絡で、どのような経過と思想と当時の状況のもとで、ここにありのかを明らかに明記すべき。日本が侵略の歴史を反省し、日中の平和のための記念塔にしなければいけない。今後その方向で交渉運動を続けていきたい。」との力強い発言であった。

2面へ つづく



呉先斌さん

# 「広島・南京をむすぶ平和友好のつどい」に参加して！

1面のつづき

最後の報告は、広島原爆被爆2世の角田 拓さん。

私の母は、牛田国民学校5年生の時、学校のグラウンドで被爆した。その時受けたケロイドが右の腕、首筋、両肩に残っている。被爆2世ということ意識したしたのは高校2年の時、放射研から電話があり、被爆2世の影響調査への協力を求められたときに始まる。」と。それまで、被爆2世というのは胎内被爆のことだと思っていた、いや、思おうとしていた、と。今は、被爆2世としての自分自身に関わる問題もあるし、また、母だけでなくヒバクシヤの被爆体験を継承するといった運動もある。被爆2世は途中でやめる

こともできない。自分なりの活動を続けていきたい、と決意を語った。



広島原爆被爆2世の 角田 拓さん



呉さんの娘さんと筆者

# 「中国東北部を訪ね、日中友好を促進する旅」に参加して

稲葉泰子

## 都市と村

旅の全体については、小林さん、丸山さんがすでに、書かれているので、感想を書くことにしました。  
竜爪開拓団地方を訪れて  
小林さんが住んでいた日の出村を訪れました。現在住んで居られる方々があつというまに私たちのところに来られているいろいろ話してくださいました。家の中にも入れていただき日常の生活にも触れさせていただきました。いつの間にか、戦争中の様子に思いを馳せていました。この場所から日本に帰ってきたのかと思うと気が遠くなるようでした。その後、龍爪駅跡を見学、満州鉄道だった線路の上に立つて、

ずーっと真つすぐはるか向こうまで続いている景色を眺めた時に、車社会で生きている私には到底できないことだと思つてしまいました。守屋さんから食事の団欒の時に、親に連れられて、長い長い列の中に入り歩いたこと、ちよつとでも休むと、列の中に加わるには倍ものエネルギーがいったことを話されて、山歩きをしたことがある私は少しわかつたような気がしました。小林さんは、あの向こうに橋があつたとか、あの道を曲がったら：があるとか、そこを皆で行つて見て、幼い頃の景色と今はどう映っているのだろうかと思つてきました。

13日に仁川を経由して牡丹江で飛行機を降りてから18日に瀋陽空港から岡山へ帰るまでに、林口、ハルビン、長春、瀋陽と5つの都市を専用車と新幹線で訪れました。都市と都市の間は専用車で3〜5時間、です。中国は広いと感じるだけでなく、都市はどこも、高いビル群とトヨタ、ホンダ、日産車、韓国の車やアメリカの車、自動車社会で広い広い歩道に、自動車がたくさん駐車しています。私は、今から10数年前に大連に行きましたが、その時は中古車が主流でした。タクシーも中古車でした。又、0

9年1月に、曾田先生がお住まいの南京へ行きましたが、その時の朝の出勤時間帯は舗道いっぱい自転車走っていました。しかし、今回は自転車もバイクも見ません、中古車も見ませんでした。そして通勤時間帯は大変なラッシュです。都市を見るかぎり、資本主義の先進国だし、と思いましたが。歩道は岡山の車道ほどありませんし、点字ブロックもどこまでも続いていました。ゴミもあまりなく清掃が行き届いていました。歩いている人々もどこことなく落ち着いた雰囲気でおしゃれでした。都市と都市の間はどこまでも、とうもろこし畑で高速道路に自動車走っている風景が見られて、とても田舎でした。ぽつんぽつんと村の集落が見られましたが、どこも、赤や青の平屋の家が並んでいる風景でした。村に住んで居られる人が街に行くには大変だろうな、と思いつながら車窓を見たのは私だけでしょうか？

## しゃべって・食べて

### 楽しい中国語講座

#### 日中友好協会倉敷支部

三月から始まった講座も十一回目を迎えました。講座生も回を重ねるごとに二人、三人と増えています。きょう八月二日は、十八人の参加でした。

この講座は、当支部の会員向けアンケート「どんな活動がしたいですか」の調査の中で、最も多かった中国語を習

いたい」という要望に応じて開かれたものです。毎月第一、と第三水曜日の十八時三十分からです。場所は、くらしき健康福祉プラザで、先生は、広本レイ氏。  
月謝は、月一五〇〇円です。次回は、みんなで餃子を作り、食べながらおしゃべりする講座です。ご期待ください  
(倉敷支部通信係  
おおもとよしこ)



倉敷支部 中国語講座

## 太極拳講座より

五禽戯をしている。

日中友好新聞にこのあいだまで連載されてたあの五禽戯だ。2017年4月に開講した88期の準備運動の時間を使って、毎週やっている。何年か前に買って放置してた本を読み、ユーチューブで動きを確認し、順番をようやく覚えてくらいで、見切りスタートした。だから前に立って手本を見せてる私の動きが、ちょいちょい変わる。そういうのもあり、と思ってる。正確な動作を覚えたいなら、きっちりした先生に教えてもらえばいい。せつかく面白そう気功法をやるのだ。くそまじめに細かく動作を覚えたり、どこに作用してどんな効果があるかを知り尽くすより、おおよその雰囲気を感じ取るのが重要だと思ってる。虎戯なら、虎ならこんなふう動く！と想像してやってみてほしい。それでも誰かに、いろいろ違うといわれても、虎ならこう動くはずだ、とか、自分のほうが猿っぽい、と自信満々でいえたとしたら、それが一番五禽戯を楽しめてるということではないかと思う。 小川涼子

8月25号は休刊です。次回は9月5日号になります。

次回の新聞送付作業は9月1日(金)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

石川 小林 和  
小川 真田 和  
小川 真田 和  
竹内 竹内 和  
坪井 坪井 和